参考資料３

第 10 次山田町総合計画策定に向けた

まちづくりワークショップ報告書

令和７年４月

目　　次

１　ワークショップの目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・　１～２

２　ワークショップによる主要な意見・・・・・・・・・・・・・　３～６

３　第２回ワークショップにおける意見の詳細・・・・・・・・　７～10

４　第１回ワークショップにおける意見の詳細・・・・・・・・　11～15

１　ワークショップの目的と概要

（１）目的

暮らしやすいまちを町民と町が共に創るため、町民が「何を大切にし、どのような未来を望むのか」を伺い、その思いを「町政（第 10 次山田町総合計画）」に反映させること及び町民の町政への興味・関心を高めることを目的にワークショップを実施した。

（２）概要

ワークショップは２回開催し、第１回の意見を踏まえて第２回で意見をまとめる構成とした。

（ア）第１回まちづくりワークショップ

●開催日時

令和６年 12 月 19 日（木）午後６時 00 分から午後８時 00 分まで

●場所

中央コミュニティセンター集会室

●方法

テーブルごとに５つの分野（健康・福祉、自然・生活環境、産業・経済、自治・協働・交流、教育・子育て）を指定し、ラウンドごとにテーブルを移動する「ワールドカフェ形式」で実施した。話し合いはテーマに沿って進め、意見を模造紙に貼りながら整理する KJ 法を用いた。

●テーマ

・山田町の現状（良いところ・課題）

・こんな取り組みがあるといいかも！？自分たちもこんなことができるかも！？

・こんなまちになってほしい、こんなまちにしたい

●参加者

阿部 美恵子さん、里 嘉千茂さん、昆 尚人さん、間瀬 慶蔵さん、
佐々 克考さん、内藤 寛さん、横田 龍寿さん、福士 隆幸さん、松本 風子さん、
台野　真実さん、福士 ひとみさん、松原 佑樹さん、工藤 大樹さん、
佐藤 知英さん、赤瀬 凱さん、藤田 至恩さん、武藤 花菜さん、
佐々木 麻里さん

（イ）第２回まちづくりワークショップ

●開催日時

令和７年３月 17 日（月）午後６時 00 分から午後８時 00 分まで

●場所

中央コミュニティセンター集会室

●方法

５つの班に分かれたうえで、話し合いはテーマに沿って進め、意見を模造紙に貼りながら整理する KJ 法を用いた。

●テーマ

・目指すべきまちの姿

・どんなまちであってほしいか

・その理由

・具体的なアクション

●参加者

Ａ班：里　嘉千茂さん、三田地　駿さん、台野　真実さん、佐々木　麻里さん

Ｂ班：伊藤　美子さん、福士　隆幸さん、松本　風子さん、佐藤　知英さん、
三浦　恵導さん

Ｃ班：佐々　克考さん、横田　龍寿さん、橋浦　優香さん、松原　佑樹さん、
鈴木　寛太さん

Ｄ班：藤原　千幸さん、間瀬　慶蔵さん、佐々木　翔太さん、遠藤　史哉さん、
武藤　花菜さん

２　ワークショップによる主要な意見

第１回ワークショップの意見を踏まえ、第２回ワークショップでまとめられた「目指すべきまちの姿」とその背景は次のとおり。

（１）Ａ班

目指すべきまちの姿：**『色とりどりで明るいまち』**

現在、日本全体で高齢化が進んでおり、高齢化社会には「灰色」のような暗いイメージが持たれることが多い。しかし、山田町はそのような町になってほしくない。山田町には漁業、農業、観光といった多様な産業があり、それぞれ特色がある。例えば、漁業は青、農業は緑、観光はオレンジといったように、町にはさまざまな色が存在している。そして、それらが調和し、住民一人ひとりが明るく暮らせる町であればピンクや黄色などの明るい色になる。このように、多くの色が組み合わさることで、活気に満ち、未来に希望を持てる町になると考えた。

また、「色とりどり」とは、多様な人々が自分らしく生き生きと暮らせることも意味している。子どもたちが夢を持ち、それぞれの個性を活かしながら成長できる町こそが、魅力的な町だと考えた。

（２） Ｂ班

目指すべきまちの姿：**『人口流出と人口減少対策に本気が見える町』**

町の将来を見据え、人口減少を緩やかに抑えるとともに、地域に新たな活力を生み出すために必要な取り組みを進めていくべきだと考えた。

この目標の背景には、以下の課題がある。まず、若者が高収入を得られるよう就労の充実を図り、人口の流出を食い止める必要がある。また、移住者を増やし、若者の新たなチャレンジを応援する環境を整えることで、起業を促進し、町全体の経済を活性化させることも重要である。さらに、子育て世帯を大胆に支援し、地域全体で子育てを支える仕組みを構築することも求められている。

これらの課題を解決するため、子育て支援、若者の所得向上、移住定住を重点事業に据え、これまでにない新たな取組に対して短期限定で大胆に予算を投入するなど、人口減少対策に本気が見える町にしたいと考えた。

（3） C班

目指すべきまちの姿：**『がっつらまぶい山田町』**

町の目指すべき姿については､｢山田発未来をつくるローカルイノベーション｣や｢若者と未来をつくる挑戦のまち山田」といった案が挙がった。しかし、より山田町らしく、かつ他の自治体にはない独自性のある言葉を採用することを重視した。このフレーズは、柔軟な解釈ができる点に加え、全国的に山田町の認知度を高めるアイキャッチとしても有効であると考えられる。

（4） D班

目指すべきまちの姿：**『愛、希望、熱であふれる山田町』**

現在の山田町には観光やお祭りなど、若者が関わる機会が多く存在する。しかし、それらを将来にわたって維持し、より発展させていくためには、町全体に「愛」「希望」「熱」が必要だと考えた。

「愛」とは、若者が山田町に帰ってきたいと思う気持ち、そして大人がその若者を温かく迎え、活躍を支える姿勢を指す。また、お祭りも町への愛があるからこそ受け継がれていくものであり、観光もまた、町を訪れた人々が山田町の魅力を知り、「山田ファン」として愛着を持つことが大切である。そのため、「愛」が町の未来を形作る最も重要な要素だと考えた。

「希望」は、若者が将来に夢を持ち、前向きに生きられる町にしたいという願いを込めた。町の発展には、次世代を担う若者たちが未来を思い描き、挑戦できる環境を整えることが不可欠である。

「熱」は、山田町の活気や情熱を象徴する言葉である。お祭りのように町全体が盛り上がり、地域の人々が一体となって活動する姿を表している。単に「お祭り」という言葉を使うのではなく、「熱」という言葉で、町のエネルギーや活気を広く表現することにした。

３　第２回ワークショップにおける意見の詳細

（１）Ａ班

目指すべきまちの姿　**『色とりどりで明るいまち』**

どんなまちであってほしいか	その理由	具体的なアクション
【優先順位１】 第一次産業の活性化	地域経済縮小防止	南の地域の養殖 環境に適応した漁業
【優先順位２】 環境と共生する活気のある町	自然を生かした事業（水、風など）が少ない	
【優先順位３】 観光客、訪問客が来やすい町 他の地域の方々（外国人を含め）を笑顔で受け入れる体制	アクセスは良いが宿泊施設がやや少ない	町 HP の充実 観光 PR をもっと クルーズ船乗船客が山田に来る仕組みづくり
【優先順位４】 医療が充実した町	通院で困らないようになれば	遠隔診療の活用などシステムの改善
【優先順位５】 子供達の夢の可能性が広がる町 子供達が将来を選択できる町 思いやりの気持ちを育む	やりたいことを選べれば	山田町に特設キッザニア CA 等山田では目にすることのできない職業も体験できるようなイベント スポーツや習い事などの体験機会の充実

（2） B班

目指すべきまちの姿　**『人口流出と人口減少対策に本気が見える町』**

どんなまちであってほしいか	その理由	具体的なアクション
活気ある町 老後に優しい町 誰もが安心して暮らせる町 人が増える（住む人、来る人） 人口の多い町 子供の多い町 住む環境が健康につながる（運動しやすい、外食、スーパーも健康に意識） 子育て世帯働き方が自由に選べる（選択肢が増える） 自分の幸せを実感できる（みつけられる） 娯楽の充実 色々な世代が地域でふれあうことができる 若者に優しい町	少子化にあらがう 一歩外に出るだけで環境が整っていれば体を動かしやすい。体のことを考えた商品を手に取れる 子供の笑い声が聞こえないとさみしい町になってしまう 人が少ないと寂しいし何事も不足しがち 効率化、競争、ハードワーク、心の健康↓そんなに働かなければ？ 防災等に全精力を注いで強い町づくりを目指す 子どもを産みたいと思っても生活が…という声をよく聞く、働きたいのに働けない人 町に足を運んでくれる人を増やす リフレッシュ、楽しむ 家族以外との関わりの中で地域を大切に思う気持ち、仕事に対して関心が高まると思う 地域コミュニティの UP 活気がないと元気も出ない	全員が参加しなくても良いので、地区での交流をもつような行事をする※地域コミュニティを UP させるような課や会社が主導となる 各制度の充実（子育て、福祉、就労） 空き家、空き地の活用 結婚、出産、育児、移住、働く人への多大な補助（縛りはつける） 若年層から高齢者までグループを作り、大会を開く 楽しんでもらえるコンテンツの充実 祭りを増やす 保育園、教育施設で行政が話を聞く。※授業参観とか。待つ、募集だけではない方法で 町内の企業と保育、教育施設をむすぶ（つなげる）仕事を担う課を
子どもが遊ぶ場所（屋内外） 魅力ある授業が受けられる学校になってほしい	子供と過ごす場所を探して他市町村に出て行っている方が多い 将来日本のリーダーになるような人材が育てば町に人やお金が流れてくる	休日に親子ですごせる場所をつくる（体育館を改造？）
高収入が得られ安心して仕事に就ける町 就労が充実している町 他の市町村とは違ったことを	工場勤務（夜勤）のような仕事しか高収入を得られないから 定住者が増えるから 若い人の流出を食い止められるから 就労場所がないと人口流出につながる 大胆な企画等 宮古、釜石が近くにあるため他の右ならえではなく 政治においても若者に権利を与えて自覚を持ってもらう	岡田元監督を呼ぶ 各課等の縦割りだけではなく、横の共有 官公の赤字支出→民間、住人の黒字、安心、収入 大手企業の誘致 お金を使う優先順位を見直す（女性の子供を産める年齢は限られる。若者・子ども増えなければ、町が立ち行かない） 単年限定で町のお金の全体の半分を使う 水産、工業、農業、経営など独自の授業をつくる

（3） C班

目指すべきまちの姿　**『がっつらまぶい山田町』**

どんなまちであってほしいか	その理由	具体的なアクション
【優先順位１】 若者が戻りたくなる、新しく移住したくなる町 子供が多い 人が多い町 観光で来たお客様がこの町に移住したいと思える町 観光客が多い 子育てしやすい町 皆が子どもをめんこく思える町	仕事面や町の魅力をもっと 子供を増やしやすい女性に優しく その方がワクワクするから 可能性が生まれる 若さが資源、財産 経済効果 AI や IOT 活用、スマート漁業・農業導入、データ管理、農作物の最適管理 六次産業化、加工、観光、ブランド化 話題性、新たな経済の柱を作って 大人から見る、子供は未来、未来に希望を持てないとめんこく思えない町がにぎわう	面倒な手続きなしで子どもを一時預かりする施設をつくる
【優先順位２】 若い人が自信を持てる町 働く場所がある	古い考えにとらわれる、自分のことだけ考える 無理と思わず手を差し伸べる町 背中を押してくれる人がなかなかいない 大人につぶされるイメージが強い 住む人が増える	
【優先順位３】 世代を超えたコミュニティが作れる町 子供から高齢者がふれあえる場所がある 海の幸とデジタル技術を活かした産業創出できる町 チャレンジできる町 若者が起業しやすい町 自己主張ができる町 子供を安心して外に出せる町 死ぬ直前まで学び続ける町	世代を超えた学びの場、技術継承や地域の知恵を活かす 孤立を防ぐ居場所づくり 心の底から子供が高齢者を敬えるように 地域企業×学校若者が地元に関心を持つ機会をつくる 戻ってくる期待値が低いと不安になる	子ども食堂を子ども大人食堂とする IT やプログラミングを専門的に学ぶ場所をつくる 企業の伴走支援、外部講師、農業など 高校に起業部（創業部）をつくる

（4） D班

目指すべきまちの姿　**『愛・希望・熱で溢れる山田町』**

どんなまちであってほしいか	その理由	具体的なアクション
【優先順位１】 若者の活躍を大人が全力で応援する町 必ず山田に帰ってくる町心のふるさと 子供達が安心・安全に過ごせる町 子だくさん 若者が定住したくなる町 子供も保護者も安心してのびのびと遊べる町 室内遊び場（子供）がある町	未来を担う若者が続くことが、町が続くことにつながるから 人口減少に歯止めを！ 子供達の自由性が奪われてしまっている 仕事、遊び場が少ない 遊べる場所が限られている 遊べる場所があっても危険がたくさんある	山田ファンクラブ 子供達に山田の美味しいものを食べさせる 町外に出ている人に毎年メッセージ付きのはがきとか 限られた部活だけではなくスポーツが盛んな町にする取組 若者の起業をサポートする取組み 子供のことを考えられる大人との連携 子供の想いを聞く→大人が動く→実践する 町の方たちが子供達を見守る意識付け
【優先順位２】 お祭りが永遠に受け継がれる町 伝統を大事にする町 祭りだけではなく来町者が通年多い町 山田祭りサイコーのキモチがずっと続く町	お祭りが山田町民の心のよりどころであり郷土愛につながるから 小学校統合により、各学校地区の伝統が忘れられている 時期によって街中がさみしい 伝統を継承していく大切さと山田祭りの楽しさを忘れないでほしい	地域の伝統芸能発表の場、指導者の継承 全校生徒お祭り参加を継続する 祭り参加者に参加証書発行、10 個で殿堂入り 地元の人も観光客も楽しめるお祭りの仕組みづくり 大人がまず楽しむ。楽しんだうえで山田祭りの大切さを伝えるのも大切 アンチも取り込む。お金の徴収方法の変更
【優先順位３】 世界の観光情報誌に必ず載っている町 山田町のことを国民全員が知っている（いい意味で） 景色の良い町（四十八坂、山田湾、船越湾）	世界から観光客が来ることで経済がまわるから 交流人口が増える	二次交通、レンタカー、レンタサイクル、ライドシェア等の導入 全国新聞広告 全国 CM SNS に頼りすぎない、高齢者にはテレビ、新聞での広告バンバン 観光客が山田を楽しめる滞在モデルを作って情報発信する！ オイッスさんをフル活用
老若男女、国籍問わず笑顔があふれる町 一人でも多くの町民の笑顔が多い町 異年齢との関わりを楽しめる町	住む人と訪れる人も幸せな時間を過ごせる町になってほしいから こんな時代の山田もあったんだと若者や子供たちが思える機会を作ってほしいから	ジェラートの店 おいすたに巨大水槽がほしい コインシャワーを作る 草刈り、景観良く、木も切る
山田と言えばかき→かきといえば山田 山田町の食文化を町民みんなが知っている 人が休日になったら来る町 海の幸がおいしい町 町内あちこちに産直や直売所欲しい	かき好きが山田に集まる 食文化を通じて山田の文化を残したい	テニスコートがある町 駐車場を増やす、お祭り時の臨時駐車場を増設 ホタテ河童神社を作る おいすたの軽食を増やす 家事代行、お母さんが休めるところを作る 旧船小を使う、廃校の利活用、一輪車、マットなど

4　第１回ワークショップにおける意見の詳細

（1）健康・福祉

山田町の現状 （良いところ・課題）	こんな取り組みがあるといいかも！？ 自分たちもこんなことができるかも！？	こんなまちになってほしい こんなまちにしたい
県立病院や医院が複数ある	年齢の高い方だけの出席が多いので 30～50 代の方の参加期待したい	どこでも誰でも楽しめる、そして健康につながれば
湯ラックスがある	民間と協働して町の健康づくりに関する取り組みの分析評価ができる	気軽に立ち寄れるカフェ的な場所があれば？
健康に関する教室や地域ごとの集会が実施されている	若者を巻き込んだ健康づくり活動ができるとよい	アウトソーシングでの教育
食べ物が美味しい	自然をコンテンツとしたスポーツ大会開催	防災教育
無料のジム（保健センター）	三陸鉄道を活用した〇〇	子供の将来の夢につながる医福に限らず活動
高齢者の健康づくり活動活発	昔と比べて捉われてはいけない	誰もが情報を簡単に得られる
人が良い、自己肯定感が高い	町の安全性、親の送り迎え	誰もが平等に健康づくりの場、意識を持てる
介護予防を目的とした自主活動団体が 50 ある	デジタルの活用できるように	子供達がワイワイして遊んでいる町
海がきれいで歩きたくなる	タクシー、サブスク、乗り合わせタクシー	共生社会、子どもからお年寄り世代関係なく繋がる
人が優しい	一時停止、運転マナー	
子供とお年寄りが関われる場がある		
18 歳以下の医療費無しになったこと		
子供の肥満、運動不足		
子供外で遊ばない、遊ぶところが少ない		
独居高齢者や障がい者を見守る支える住民の関わりが少ない		
60 歳代以下の健康づくりに町がなかなか関与できていない		
健康格差、参加場が限られている、通院		

＜手段＞
①子供たちが外が一番楽しい機会提供
②ストレスを小さくする（働く環境）
③これまでの人生の経験をこれからの人に
　伝える機会提供（これの逆も）

＜ビジョン＞
山田町に暮らしている全ての人が望んだ暮らし方ができる

（2）自然・生活環境

山田町の現状 （良いところ・課題）	こんな取り組みがあるといいかも！？ 自分たちもこんなことができるかも！？	こんなまちになってほしい こんなまちにしたい
海洋スポーツ町外からの利用者多	海洋スポーツ後泊まり	通院がとどこおらない
あら神	海（砂浜）整備夜も利用	デジタルの受診
訪問販売車サービスの拡充	町内の美化（ゴミ拾いなど）活動がもっとあってもいいかも	もっと行き来しやすい交通機関があればいい！
山田はなんといっても海、山が美しい。ただ、防潮堤が高くて海が直接見えない。	防潮堤にボルダリング	利用しやすく安価な送迎サービス
海産物（海の資源変わりつつあるが）	子供達が自然を楽しむ取組み（イベント）がもっとあるといい	災害につよいまち
あそび場少ない。	エネルギー事業、水、光、風などを使う	町外からくる人の受け皿が不足
公園はあるが遊具ない	お客さん（観光客）に喜んでもらえるまち	四季折々の食べ物を食べられるところ
環境整備の担い手不足、高齢者	映える施設、飲食、宿泊、教育、防災	災害に強いまちづくり
海、山と自然美しい	移住してくるかも	泊まれる施設が少ない
町の奥はのどかで住みやすい（ただし車が必要）	生活を止めない工夫（災害時）	高齢者が安心して暮らせる町→移住者増？
町の中の交通機関が不便	町の中心に海産物食べれる店？施設が欲しい	
年齢高い方多く不便を感じている	捨てる魚も冷凍して災害時用に備蓄する	
	駅前空テナント	

（3）産業・経済

山田町の現状 （良いところ・課題）	こんな取り組みがあるといいかも！？ 自分たちもこんなことができるかも！？	こんなまちになってほしい こんなまちにしたい
家族旅行村	自然体験等	子供を育てやすい
本当に若者の意見が通っているのか？	グランピング	山田町のお土産
びはん付近の空き店舗の使い方	山田のカキ、ホタテを１つ２つ気がるに食べれるところ	仕事がたくさんある町
オール店空き店舗	山田に来る理由、キラーコンテンツ	託児所、医療
食べ物がうまい！！	山田の目玉料理、各店の色が出る	山田のことを知らない人がいない状態にしたい
山田駅からの動線	狩猟体験、とっぴょうしもない企画	海、オランダ島、波を自動でサーフィンをする人を呼ぶ
給食無料！	非現実的な体験メニュー	宮古、釜石から働きに来る
	ご当地商品メニューの開発	それだけを理由に来るレベルのアクティビティ
	ホタテ♡	海のアンテナの仕事
	水かぶり	1 次産業でもうかる
		ファミリー世帯が住めるくらいの仕事
		オランダ島に女性がキャンプ
		世帯年収が 1,000 万円

（4）自治・協働・交流

山田町の現状 （良いところ・課題）	こんな取り組みがあるといいかも！？ 自分たちもこんなことができるかも！？	こんなまちになってほしい こんなまちにしたい
地区コミュニティがある 自治会役員のなり手不足 山田町の玄関山田駅前の空き店舗が第一印象が良くない 世代間交流が少ない、全くない	集会施設の利便性を高めればいいのでは？移住者と元々の住民が 若者と高齢者の間のかべ　風通しを良くするといいのでは 広報を強化するといいのでは？ 協働　未来ビジョンに共感してもらうモノ、コト プライベートなマッチングの機会が豊富、気軽なまち 人とつながりたいならここに行けば良いという場所があるまち 駅前の空き店舗をなくす コワーキングスペースが欲しい	景観がよいまち 環境がよいまち 治安がよいまち くらしやすいまち

（5）教育・子育て

山田町の現状 （良いところ・課題）	こんな取り組みがあるといいかも！？ 自分たちもこんなことができるかも！？	こんなまちになってほしい こんなまちにしたい
運動不足になる環境	様々な業種と触れる機会を増、地域の大人とふれあうキカイを	スポーツ、その他の子供の習い事の充実
子供の肥満	幼児～発達段階に合わせた命、思春期（性）教育	
他市町村でも楽しめる場に子育ては行く。遊び場の充実	人づくり（未来への）	
本当は働きたい、自由な働き方の選択→まだまだ役場でさえも	山田で受けたいものを作る	
保育園の統合、質の確保	山田エデュケーショナルカルチャーを作成	
発達の緩やか障がいのある児、放課後デイサービス	教育を選べるように	
プロを育てるために現在の教育は？	影響力のある人を育てる	
徒歩通学を推進する	ふるさとを愛する人	
学校施設の活用	夢を持ってもらう。ネットの情報であきらめない	
兄弟で同じ保育園を	学ぶを作る。環境を作る。	
小中学生の意見をもっと取り入れる	その道のプロを講師として呼ぶ	
	給与を上げたい	
	皆が気軽に楽しめるスポーツ	
	山田にしかないトガったもの	
	子供あつまれる場がもっと欲しい	
	バレーが山田では熱いのでビーチバレーを	
	娯楽を増やす	
	多世代の交流	
	総合型地域スポーツクラブを設立準備中	